

会津地域における集落営農支援の取組みについて

会津農林事務所農業振興普及部



ベコ太郎

1 背景・ねらい

【背景】

○ふくしま型集落営農の時代（H10以前～H23）

農業振興普及部内にプロジェクトチームを立ち上げ、管内市町に重点集落を設置し、**2階建て方式**と呼ばれる農用地利用改善組合と担い手組織を核とした集落営農方式を重点的に支援。

○人・農地プランの時代（H24～R4）

関係機関毎に推進チームを立ち上げ、各市町毎に対象集落をリスト化。人・農地プランの作成支援とともに各市町ごとに工程表を作成し、**農地中間管理事業**を活用した農地の利用集積を図りながら、プランの実質化を推進。

○地域計画の時代（R5～）

人・農地プランの内容に加え、さらに集落ごとの目標地図を作成し、**農地利用の姿を明確化**する地域計画を推進。

【ねらい】

集落の担い手や状況に応じた方法で、集落営農を進める必要があるね～。



○農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し、ほ場整備を進めることから、地域の担い手となる農業団体に対して**法人化**、**高収益作物栽培**の支援を進める。（会津若松市高野地区）

○地域の農地を集落全員で守りつつ、担い手の確保育成を目指す新しい集落営農により**法人化**を進め、**継続的に農地の維持、管理、営農ができる組織**をつくる。（磐梯町上西連地区）

2 活動内容

【整備事業活用】会津若松市上高野集落【株式会社永和ファーム】

～農地中間管理機構関連農地整備事業を活用した法人化及び高収益作物技術支援～

(1) 法人化への支援

○上高野農地改善組合が農地中間管理機構関連農地整備事業を活用して、ほ場整備を行うことが決定。

○新たに地域の担い手として法人を立ち上げることとなったことから普及がコーディネートし、農業会議や税理士を招き勉強会を開催。**法人化**を支援。

(2) 高収益作物栽培の支援

○集落担い手は水稻単一経営体の方で占められており、園芸品目を栽培した経験はなかったため、普及で花き栽培を中心に**技術支援**をきめ細やかに実施。

○普及の呼びかけにより、永和ファームを支援するため、会津若松市、土地改良区、JA 会津よつば、農林事務所（農業振興普及部、農村整備部）で支援チームを結成。月1回の打ち合わせを定例化し支援。

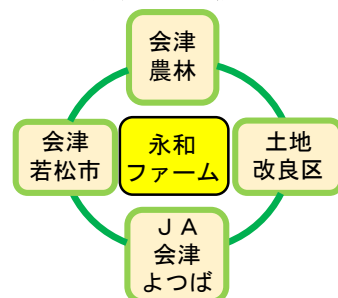


図1 支援チーム連携図



図2 面整備終了後

〔一般社団法人設立〕 磐梯町上西連集落【一般社団法人ライステラス大谷】 ～地域まるっと中間管理方式を活用した法人化～

(1) 関係機関での勉強会

○集落役員、町、県、農業振興公社で**2階立て方式**に代わる新しい集落営農方式である「**地域まるっと中間管理方式**」の理解を深めるための勉強会を開催。

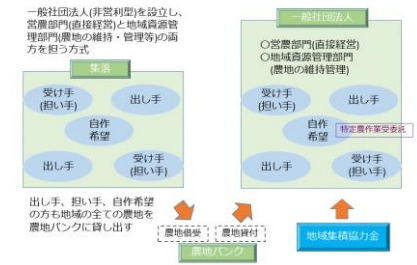
(2) 集落内説明会

○非農家を含む上西連集落の住民に対して、「**地域まるっと中間管理方式**」の内容を説明し、集落の合意を得る。

(3) 一般社団法人設立を見据えた疑問点の解決

○集落説明会でさらに出た疑問点に対して、さらに理解を深めるよう「**地域まるっと中間管理方式**」提唱者である可知祐一郎氏を集落に招き、さらに同方式及び**一般社団法人**への理解を深めた。

地域まるっと中間管理方式



一般社団法人について

一般社団法人とは？

- 1 非営利組織である (剰余利益を分配しない法人であること)
- 2 社員が2人以上である
- 3 設立にあたって市町村や県等の許可は不要 (公証役場や法務局への届けは必要)

一般社団法人と農業

- 1 農業経営は可能であるが、農地の所有はできない
- 2 非営利型の要件を満たせば、出荷額の一部は非課税となる (非課税となるのはJ A、市場出荷のみ)

非営利型一般社団法人の要件

- 1 剰余金の分配を行わないことを定款に定めている
- 2 解散したときの剰余金は国等に贈与する
- 3 理事とその理事の親族等である理事の合計数が理事総数の1/3以下

図3, 4 地域まるっと中間管理方式説明資料

3 活動成果

会津若松市上高野集落【株式会社永和ファーム】

- 人・農地プランの実質化 (上高野地区 平成26年3月27日)
- 株式会社永和ファームが設立 (令和4年3月1日)
- 農地中間管理事業による農地集積 (集積率100%)
- トルコギキョウ (面積6a) が初出荷 (令和5年8月)



図5 生産されたトルコギキョウ

磐梯町上西連集落【一般社団法人ライステラス大谷】

- 人・農地プランの実質化 (上西連地区 令和3年3月30日)
- 一般社団法人ライステラス大谷が設立 (令和5年1月18日)
- 地域まるっと中間管理方式による農地集積 (集積率80.4%)



図6 集約された地区ほ場図



図7 ライステラス大谷設立総会

4 今後の活動・方向性

- 各関係機関との連携による情報交換や対象集落への支援
- 集落営農 (農業法人) が継続できる 担い手の確保支援
- 集落 (農業法人) が収益を確保できる 新たな園芸品目 (高収益作物) 導入の情報提供、栽培技術の習得支援。
- 代表的な 集落営農モデルを確立し、近隣集落へ派生。

これからもがんばろ～

